

二十歳の誓い

私は、日本人とアメリカ人のハーフとして、アメリカで生まれ育ち、昨年5月に初めてラスベガスから京都にやって来ました。私の父母はとても厳しく、自由の国アメリカなのにティーンになっても門限があり、勉強とクラブ活動、ボランティアと私の生活はとても限られたものでした。小学校から中学校までアメリカの学校と日本語補習校でも学び両立するのは本当に大変でした。それでも頑張って高校では良い成績を治め生徒会の副会長もしていましたが、大学受験の頃になると、「今の自分は将来いったい何をしたいのだろう、何ができるのだろう。」何も思いつかず、これといった目標がないことに気が付きました。高校の友達には将来の目標を持って大学へ行きましたが私には何もありません。空っぽのままでした。

そんな思いを母に相談したところ、「自分がしたいこと、夢中になれることが一つでも見つけられれば幸せよ。それを見つけるには沢山の経験を積まなければね。まずは何でもやってみなさい。それから自分で選びなさい。」と言われました。大学に入学してからは私には何ができるんだろうと考え、色々なアルバイトを始めました。ホテルでプールの監視員、日本の寿司レストランやラーメン屋さん、ベビーシッター、YMCAの指導員など好きなことも嫌いなこともとにかく経験として全てを一生懸命やってみました。すると人の輪がどんどん広がっていき、「自分が変われば相手も変わる。」ということに気が付き始めたのです。

それまではとにかく勉強をし、いい成績を取り大学を卒業することばかりを考えていましたが、仲間と楽しく過ごし、ボランティア活動やスポーツをして心や身体を使うことで、不思議に自分の気持ちが前向きになってきました。嫌な気持ちで過ごすよりもいつも気持ちがワクワクするように心がけました。そしていいことを願って前向きに日々を過ごしているとチャンスがやって来たのです。

リッツカールトン京都のインターン生として京都に来るチャンスをつかみました。このことは迷わずに私が決めたことです。京都に来てまず学んだことは、自分のことだけではなく人のことを考えて『気遣う』という文化でした。京都は本当に美しいところです。その美しさを感じさせてくれたのは、この歴史深い街に住む京都の人達でした。言葉づかいや立ち居振る舞いなど、わずかな出会いの瞬間にでも心地よく感じていただける『おもてなしの心』を、私は今、京都で学んでいます。

家族や大学の先生方、ホテルの方々に支えられ、この場を経験できたことに感謝しています。これからまた大学に戻っても京都でのすばらしい経験を忘れず、世界中の経済を勉強し役立つ人になりたいです。「やるか、やらないか。やるを選択すればそこから道は開ける。」

これからも頑張って自分の進む道を切り開き、前進していきたいと思えます。

このことを私の二十歳の誓いとさせていただきます。

今日は私たちのために、このような盛大な成人式を開催いただきましてありがとうございます。

心からお礼申し上げます。

平成30年1月8日 新成人代表 バーチ 美奈